

第1学年 算数科学習指導案

日時 10月15日(金) 第5校時
場所 1年生教室
授業者 西村 恵美

1 単元名 ひきざん

2 指導の立場

本単元の構成と「学習指導要領」との関連は、次のようである。

A (2) 加法・減法

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法・減法の計算の仕方を考えること。

これまで児童は、10以下の数から1位数をひく減法、10より大きい数の構成、 $16-6$ のような計算、3口の数の計算、1位数と1位数をたして和が11以上になる加法の意味とその計算方法などを学習してきた。

そこで、本単元では、これらの理解のもとに、10いくつから1位数をひいて差が1位数になる減法を学習させていく。前単元と同様、既習の考え方を生かして、計算のしかたの指導に重点をおき、くり下がりのある減法について理解させていく。くり下がりのある減法の計算は、児童にとって、抵抗が大きい。ブロックを操作させながら、「10とあといくつ」という数の構成的な見方を用いて、課題を解決させていきたい。

3 研究内容にかかわって

自らの考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成
～算数科の授業における一人一人が輝く授業を目指して～

(1) 一人一人が学びたい考えたいと主体的にとらえる導入

① 掲示や既習内容の活用

・児童一人一人に課題解決の見通しをもたせるために、「10のまとまりをつくる」というくり上がりのある加法の計算方法を、ブロック図や言葉で分かりやすくまとめて掲示し活用する。

② 五感に訴える教材教具の活用

・問題文の意味や本時は「ひき算」であることを、一人一人に捉えやすくするために、電子黒板による動画を活用する。「 $13-9$ 」を立式する中で、これまでの「1位数-1位数」の計算とは違うことに気付かせ、本時の課題につなげていく。

(2) 自ら考え、自ら問題解決する個人追究のあり方

① 個に応じた指導・援助

・ブロックの操作でつまづく児童には、『「13」を10といくつに分けるのか。』や『「9」を一度にひけないかな。』と問いかけたり、ブロックを順に操作している絵を提示したりする。

・お話ししながらブロックを操作することにつまづく児童には、「計算のしかたお話ヒントカード(穴あき)」を準備しておく。

・全体では、「はじめに」「つぎに」等の順序を表す言葉を使って、なぜそのように操作したのか、わけまで入れてブロック操作をし、式と答えをプリントに書いているかを見届ける。

(3) 確かな課題解決に向けた交流のあり方

① 操作・図・言葉でつなぐ話し合い

・自分の考えを確かにするために、個人追究が全員できた時点でペア交流を行う。順序を表す言葉を使ってブロック操作を繰り返させさせることで、自分の考えを確かにし、操作と言葉と式をつなげていくことができるようにする。相手を意識して交流させ、聞き手は反応しながら聞くことができるようにする。

② ねらいに迫るための交流のあり方

・減加法でも減減法でも、計算ができることを板書で確認し、本時は、10のまとまりからひく減加法を押さえる。「9を一度にひくことができたのは、どちらの方法かな。」と発問し、「10いくつからひくひき算の計算のしかたは、10からひいて、残りの数をたせばよい。」ことに迫っていきたい。

4 単元の目標

- (1) くり下がりのある減法を日常生活に生かそうとする意欲をもつ。
- (2) 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算原理や方法を理解し、正しく計算できる。
- (3) 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の適用問題を解いたり、問題を作ったりすることができる。
- (4) 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算カードを用いて計算の練習をし、計算に習熟する。

5 単元指導計画(全9時間)

小単元	時	ね ら い	学 習 課 題	評 価 規 準	評 価 方 法
ひき算	1 本時	くり下がりのある2位数－1位数の計算をするには、ブロック操作をすることで、10のまとまりから1位数をひき、その残りとの被減数をたせばよいことに気づき、差が1位数になる減法の計算のしかたが分かる。(減加法)	10いくつからひくひきさんのけいさんのしかたをかながえよう。	10いくつから1位数をひく計算をするには、10のまとまりから1位数をひき、その残りとの被減数をたせばよいことに気づき、差が1位数になる減法の計算をしている。(考)	ブロック操作 発言 プリント
	2	ブロック操作をすることで、くり下がりのある2位数－1位数で、差が1位数になる減法の計算を正しくすることができる。	10いくつからひくひきさんのけいさんをしよう。	10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算をすることができる。(表)	ブロック操作 発言 プリント
	3	被減数の1位数や減数との差が小さいひき算の計算をするには、ブロック操作をすることで、減数を分けて、ひいて、ひいて計算すればよいことに気づき、差が1位数になる減法の計算のしかたが分かる。(減減法)	ひくかずがちいさい10いくつのひきさんのけいさんのしかたをかながえよう。	10いくつから1位数をひく計算をするには、ブロック操作をすることで、ひく数を分けて、ひいて、ひいて計算すればよいことに気づき、差が1位数になる減法の計算をしている。(考)	ブロック操作 発言 プリント
	4	ブロック操作をすることで、くり下がりのある2位数－1位数で、差が1位数になる減法の計算に習熟することができる。	10いくつからひくひきさんのけいさんをしよう。	10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を減加法や減減法ですることができる。(表)	ブロック操作 発言 プリント
	5	減法の式と絵を見て、減少や比較の問題を作ることができる。	ひきさんのしきになるおはなしをかながえよう。	13や6という数に着目し、「のこって」や「どちらが」の言葉を使って減法の問題を作ることができる。(表)	発言 プリント
ひき算カード	6	ひき算の計算カードを使って計算の練習をすることで、10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算が確実にできる。	かあどをつかって、ひきさんのれんしゅうをしよう。	10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を正しくすることができる。(表)	ひき算カード 発言 プリント
ゲーム	7・8	計算カードを使っていろいろなゲームをすることで、10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算に習熟することができる。	いろいろなげえむをして、ひきさんをたたくことができるようにしよう。	10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を正しくすることができる。(表)	ノート 発言
れんしゅう	9	減加法や減減法を使って、問題を解決することができる。	れんしゅうもんだいをしよう。	減加法や減減法による計算の仕方が分かる。(知)	ノート 発言

